

第1回 第2期三朝町まち・ひと・しごと創生推進会議 議事録

日時 令和2年2月3日

13:30～15:15

会場 三朝町役場第4会議室

1 開会

青木地域振興監	<p>それでは時間になりましたので、第1回目となります三朝町まち・ひと・しごと創生推進会議をはじめさせていただきたいと思います。</p> <p>私はこの会の事務局をしております、三朝町役場企画課の青木と申します。</p> <p>本日は前半の進行役をさせていただきますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>さて、あのお集まりをいただきました皆様におかれましては、事務局より委員をお願いしましたところ、快くお引き受けをいただきました、心から感謝を申し上げます。</p> <p>それでは、開会にあたりまして、松浦町長からご挨拶を申し上げます。</p>
松浦町長	<p>皆さんこんにちは。今日はお忙しいところ、三朝町のまち・ひと・しごと創生総合戦略の推進会議に御出席をいただきました。</p> <p>また、その委員としてご快諾をいただきましたことについて、深く感謝申し上げます。</p> <p>総合戦略については国の地方創生の戦略として創設され、来年度から2期目の計画をつくることとなります。</p> <p>三朝町として反省をしてみますと、第1期は全体的な流れだったのでしょうけれども、よく網羅され、広く事業全体を、町づくり全体を網羅してあって、少し町としての特色にかけていたのかなという思いも持っております。2期については、これまでに町民の方、グループの方の御意見を頂戴しながら、たたき台、素案を創ってまいりました。</p> <p>そのなかで絞り切れないところもございますが、私としては産業、そして人材育成、これは教育、地域を含めたものになりますけれども、そして健康づくりが大きな柱になればと思っております。やはり、5年間のなかで、新しい町づくりを進めていくというのはある面で絞っていかないとその成果は現れないと思いますし、1期目の対策の中で、人口減少というのが、現在もそうですが課題とされてきており、先般国の推計の数字が出ましたが、人口減少が三朝町の場合は依然として同じ傾向で減っておるということでございます。</p>

	<p>これまで1年で人口の100人が減っておりまして、第1期の人口の目標をある面でそれを継続して目指していくことを思っておりまして、2040年に5,000人の町を創っていくという風なことを思っております。これは昨年策定した三朝町の第11次の総合計画もそういった目標のもとに進めていっております、そうすると、今の単純に減少率を1年で50人していくことになって、いかに緩和をする対策をどうするかになります。そういったことで、これから会議の中で皆さんからいろいろな御意見を頂戴しながら、地方創生の事業を組み立てていきたいという風に思っておりますので、どうぞ少ない回数ではありますが、御意見を頂戴し、そして新たな地方創生の戦略の推進にご協力願えればと思います。今日は本当にありがとうございました。よろしくお願いいたします。</p>
青木地域振興監	<p>それでは続きまして、委員の辞令を交付させていただきたいと思えます。松浦町長から交付させていただきます。</p>

## 2 辞令交付

## 3 自己紹介

青木地域振興監	<p>今回の「第2期三朝町まち・ひと・しごと創生推進会議」は、国の方針を受けまして、第2期目となります「三朝町におけるまち・ひと・しごと創生に関する総合戦略」について、専門的な見地から幅広い意見を求めるとともに、同じくその施策効果や目標達成状況等についての評価をお願いしようとするものです。</p> <p>資料1-1に推進会議の設置要綱を示しております。新たに令和2年度から5年間の取り組みとなりますので委員の皆様の任期につきましては、令和6年度末までとさせていただきます。長いですが宜しくお願いします。資料1-2は、委員15人の皆さんの名簿です。要綱と併せてご覧ください。それでは、日程4.委員の紹介です。自己紹介でお願いしたいと思います。足立会長からお願いします。</p>
足立委員	<p>三朝温泉館協会の会長をしております足立と申します。どうぞよろしくお願いいたします。</p>
沖田代理	<p>三朝温泉旅館協同組合の沖田です。今日は岩崎理事長の代理ということで来させていただきました。よろしくお願いいたします。</p>
松原委員	<p>三朝町商工会の会長をしております松原です。よろしくお願いいたします。</p>
小川委員	<p>私は鳥取県中部森林組合の組合長をさせていただいております小川で</p>

	<p>ございます。先回からこの委員というこで委嘱をうけてやっているわけですが、我々のご承知のように林業という山を守る立場でございます。貴町におかれましては温泉と山の町ということで承知しておりますが、今後我々の立場で微力ながら三朝町のですね、発展のために尽くしたいと思っていますので、ご指導いただきますようよろしくお願いいたします。</p>
福田委員	<p>失礼します。ハローワーク倉吉の福田と申します。よろしくお願いいたします。</p>
前田委員	<p>日本海新聞で記者をしております前田と申します。現在三朝町を担当している関係で、多分委員に選ばれたのではないかなと思っています。取材活動を通じまして見たこと、感じたことを会の中で提言していきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。</p>
山名委員	<p>日本海ケーブルネットワークの倉吉センター長の山名と申します。前はセンター長の中嶋という者がさせていただいていたのですが、実はこの2月に異動になりまして、私がその後を継ぐことになりました。よろしくお願いいたします。</p>
大坂委員	<p>三徳地域協議会の会長ならびに三朝町の地域協議会の幹事をつとめております大坂といいます。よろしくお願いいたします。</p>
西田委員	<p>三朝町教育委員会教育長をしております西田寛司と申します。教育の方では今補正予算でギガスクール構想とか、教育の方に思いもかけぬ国の策で学校現場の方は大変混乱しておりますが、皆さんのお力添えをいただいて、少しでも小学校中学校の教育活動がうまくいきますように、ひとつよろしくお願いいたします。</p>
竹本委員	<p>失礼します。鳥取銀行倉吉中央支店の竹本でございます。よろしくお願いいたします。金融という立場ですけれども、当行でも地方創生に対してですね、銀行でできることは何だろうかと本部と連携してやっていきますので、お力になればと思っていますので、よろしくお願いいたします。</p>
太田委員	<p>失礼します。倉吉信用金庫の支店長をしております太田と申します。どうぞよろしくお願いいたします。倉吉信用金庫としましても、中部地区に本部を構えており、三朝町の中心として中部全体が活性化されることを願っておりますので、微力ではありますが、お力になれるよう頑張りたいと思いますので、よろしくお願いいたします。</p>
長江委員	<p>改めましてこんにちは。NTT 西日本鳥取支店でビジネス営業部の部門長をしております長江と申します。よろしくお願いいたします。弊社、NTT 西日本ではテレビCMでお伝えをしておるのですが、ソーシャル ICT パイ</p>

	<p>オニアという言葉を使わせていただいて、事業を進めさせていただいて、これ何がいたいかという地域の社会的な課題を ICT の力を使って解決に持っていきましょうという考え方でございます。我々もですね、ICT を活用させていただいて三朝町の発展に少しでも貢献できるようにしてまいりたいと思いますので、よろしく願いいたします。</p>
青木地域振興監	<p>ありがとうございました。オブザーバーとして中部総合事務所の地域振興局三朝町担当コンシェルジュということで上野さんをお願いしております。ひとこといただきたいと思います。</p>
上野オブザーバー	<p>こんにちは。鳥取県中部総合事務所地域振興局の参事をしております上野でございます。三朝町の担当のコンシェルジュということで県と町とのパイプ役をさせていただいております。中部総合としては、三朝町は観光、商工ともに重要な町でございます。こういった会議を通し、さらに発展していただくように願っています。今日はよろしく願いします。</p>
青木地域振興監	<p>皆さんありがとうございました。</p>

#### 4 議事

青木地域振興監	<p>それでは、議題へ入りたいと思います。</p> <p>本日の流れですが、レジメに示しておりますが、まず、事務局からこれまでの経過と第2期総合戦略の策定に向けた考え方、アウトラインをお話させていただきます。</p> <p>その後に、「フリートーク」としてありますが、三朝町の地方創生、まちづくりについて、委員の皆さまが日ごろから感じておられることにつきまして、幅広い見識のなかでご意見をいただきたいと思っております。それでは、要綱に基づき、ここから議長を松浦町長にお願いしたいと思います。</p>
松浦町長	<p>それでは、第2期総合戦略の概要などについて、担当課長から報告をいたします。</p>
青木地域振興監	<p>本町の総合戦略につきまして、これまでの経過と第2期総合戦略の策定に向けた考え方について説明させていただきます。</p> <p>まず、資料について確認をいたします。</p> <p>資料2「第1期三朝町まち・ひと・しごと創生総合戦略」検証状況報告（概要）</p> <p>資料3 三朝町人口ビジョン概要</p>

資料４－１ 第２期総合戦略 イメージ（フロー図）

資料４－２ 第２期総合戦略 概要

資料４－３ 地方創生インタビュー概要（要旨）

順番でつけております。ありましたでしょうか。

それでは、始めさせていただきます。まず、資料２をご覧ください。

これは、第１期４年間の検証の概要を示したものです。

基本目標と数値目標で検証（ポイント）、KPIの達成状況等を記載しております。検証結果の詳細につきましては、封筒の中に入れておりますので後ほどご覧ください。

次に、資料３ 三朝町人口ビジョンについてです。国勢調査ベースでは前回同様となります。その後の動きを加味した将来展望を次ページに示しました。これらを踏まえて、「目指すべき方向」についてまとめようとしております。

全国的な傾向であり、非常に打ち出しにくいところがございますが、戦略的にスモールタウンを目指し、人口流失を止めるイメージを持ちたいと思います。人口ビジョン（案）については、封筒の中に現在の全体像が入っております。参考にしてください。

次に、資料４－１～３ ですが、第２期総合戦略の本体についてです。まずは、資料４－１をご覧ください。第２期総合戦略を策定するにあたり、その入り口として事務局で作成しましたアウトラインでございます。

２期創生総合戦略の策定につきましては、６月に国の方針であります「まち・ひと・しごと創生基本方針２０１９」が示されたのを受け、策定に向けるものです。

１２月には、国の総合戦略が示されております。ポイントとしましては、東京一極集中の是正や、全国的に人口減少問題解決の糸口が見えないこと、その難しさを認識しながら、新しい技術を活用して地域の課題の解決に取り組む「ソサイエティ５．０」の推進や、持続可能なまちづくりにつながる「SDGs（エスディーズ）」の実践、関係人口や地域づくりに取り組む団体の育成と活用により“地域住民”の枠を超えた中での人材の活用、活躍によるまちづくりなど、活力があり持続可能な地域社会の実現に向け、人口確保への対策を進めつつ、人口減少に適応できるまちづくりを目指すことが求められていると感じております。

町では、このような国の方針を受け、昨年度策定しました第１次総合計画で定めた目標を見据えるとともに、第１期の検証を踏まえまして、「まちづくり（地域づくり）」「ひとづくり（人材育成）」「しごとづ

くり（産業振興）」を柱とした2期の総合戦略の策定に取り組むことといたしました。

第1期の推進会議の反省点を踏まえ、推進会議に加えて、町民目線の意見を集める取り組みとして地方創生メンバーを設定し、出かけて意見を伺う“井戸端会議作戦”を展開しております。これにつきましては、資料4-3としてつけておりますので後ほどご覧いただきたいと思っております。今回策定する第2期総合戦略は、総合計画のアクションプランとして位置づけていこうと考えております。

計画の現段階での概要につきましては、その次に示しておりますが、課題と目指すもの、ポイントとなるテーマを書いております。まだ、検討中のものもございますが、こういった項目で構成していきたいと思っております。これらを、5年間の計画のなかで、予算化しながら進めていければと思っております。

個々に少しご説明をいたしますと、まず「まち」の創生についてですが元気な「コンパクトタウン」の創造を目指したいと思っております。人口減少対策会議を通じて、人口減少に立ち向かう方策を検討していきます。コンパクトな町づくりは一朝一夕で出来上がるものではありませんが、戦略的に将来を見据えた取り組みが欠かせません。また、一方では今生活している皆さんの現在の「暮らし」を最優先にして取り組みも並行していかなければならないと思っております。

また、良質の三朝温泉を、町民の健康づくりに活用し、その効果を全ての町民が享受できる。そんな、温泉まちとしての健康な“三朝町”を目指すこととします。

次に「ひと」の創生についてです。地方創生の進展は「人材」すなわち「活躍するプレイヤー」の存在が欠かせません。これまで、ややもすると行政の役割だけに期待がかかるわけですが、並行して、活躍する人材の育成、発掘、場合によってはスカウトなど、その活かし方が求められています。ある意味他を圧倒するような、突出した「みさき教育」の推進や外部人材の活用による町民への働きかけなど、活発な人材育成・関係人口への挑戦が必要と考えております。

最後に「しごと」の創生についてです。観光、農林業など基幹産業を持続可能なものとして伸ばしていくためには、新たな魅力と世代交代への対応が必要です。温泉の恵を享受する町民やまちのプレイヤーがワンチームとなって、三朝温泉を中心に産業を結び付け、つながって、発信していく。その中で、仕事が伸びていく。そんなことを考えております。そのためには、外部人材の活用が欠かせないと思っておりますし、受け

	<p>入れるための体制強化も必要と思います。</p> <p>資料４－２は、第１１次総合計画から引き出す中で、第２期まち・ひと・しごと創生総合戦略の概要を示しております。SDGsの目標項目との関連を持たせること、先ほどお話した、まち・ひと・しごとにおいてポイントとなるテーマへの記載を通じて、総合戦略が担う、総合計画のアクションプランとしての役割をより明確にしていきたいと思えます。これにつきましても、封筒のなかに、現在の事務局案を入れており、資料４－２はその概要版です。</p> <p>この後、委員の皆さまからのフリートークにより「三朝版地方創生」についてお話いただくわけですが、今日以降、いただいた意見を踏まえてまとめていき、３月にもう一度委員会を開催したいと考えております。また、会議だけでなく添付しております「意見用紙」や、先ほどの「井戸端会議」同様、出かけてお聞きするなど、状況に合わせてアクティブに対応していきますので、是非、きたんのないお話をお願いしたいと思います。今回の２期計画は、年度末を目途に成案としたいと思っております。</p> <p>よろしく申し上げます。</p>
<p>松浦町長</p>	<p>ざっと説明しました。初めて見られた内容ですので、なかなか意見が出にくいと思いますので、途中でご説明しますのでご意見を頂戴したいと思います。</p> <p>はじめにも言いましたが、今日は初回でございますので自由な意見を頂戴したいと思います。それぞれに御意見をいただければと思いますので、大変申し訳ないですけども私の方から指名をさせていただきたいと思えます。今日の会議３時までを予定しておりますので一人５分ぐらい大丈夫だと思います。そういうことで進めさせていただきます。では、最初に小川組合長さん切り口を、色々と考えておられることがあると思えますので、いかがでしょう。</p>
<p>小川委員</p>	<p>林業という森を守る立場で、三朝町さんにお力添えができると思う中で、今この「まち、ひと、しごと」の３点の中で、御承知のとおり林業と言うのは基本、木材産業という立ち位置がございまして、林野庁を中心とする施策を展開してこられたということもありますが、なかなか材価低迷等もありまして林業というものが生業として成立しないなかで、令和２年度から森林サービス事業というソフト事業、約１億円くらいのソフト事業ですけど予算計上されたということですが、このことは森林空間利用ということで、林業という事だけではなく、多面的な機能を発揮することによって、森林の保全を図っていこうという一つの</p>

	<p>手段ではないかと思っています。数年前に貴町の方で、森林を利用して、そういった保全の場として温泉、観光、そういったものとひとつの関りを持ちながら今申しました「まち、ひと、しごと」こういったものを確保していこうとするもので、これは貴町のほうで取り組みを進めていきたいなと思っています。先かた説明のありましたSDGs、ゴールに向けまして、これをゴールと思っていますが、従前からございましたが、大企業を中心としましたESG投資、環境社会、こういったものが行政サイドにおいても取り組み、SDGsゴールのために必要なことだと思っていますので、申し上げた森林保全等も含めて、我々も提案させていただきますので、できることと、できないことを整理していただいて、このことについても今後検討していただきたいと思っています。</p> <p>町長さんも肝いりで進めていただいています。非常に農業というのが林業と一緒に冷えていきたということで、荒廃農地が今後増えてくるであろうという事が、全国的なことですが、今あるわけですし、町長の御理解のもとに今、再生不可能な農地について林地化ということで三朝町を中心に進めてきているところですが、今後鳥獣対策ということも含めて、この取組みをさらにスピードを上げて進めていければと考えています。このことがまた、人、まちづくりに影響してくる取組みでないかなと思っています。今後、我々の立場としてできることを一生懸命、貴町のために提案、活動していきたいと思っています。</p>
<p>松浦町長</p>	<p>ありがとうございます。三朝町は、湯と山の町という事で、町ができてからそういう町の企画ベースを使ってきました、やはり9割の山があって、観光の方が確かに知名度が高いですけど、山が荒れてしまったら観光の魅力がなくなるというふうに思っていますし、水の水源が山でございますので、そういったものも大事に考えていかなければならないと、改めて思っています。荒廃農地の件で組合長さんに言ったんですけど、今私がおもっているのは、実はふるさと健康むらのところに杉の造林地がございます。今は合銀さんが、去年、共生の森でいろいろ手を加えていただいておりますけど、もともと木の山は、全部ではないですけど、役場の庁舎がこの大瀬に出た記念に、当時の松村町長が職員に「木を植えよう」という事で、財産区の山をお借りして植えたという思い出があって、私が役場に入った年であります。ですから、そういう経過を知っている職員はもういません。今年度、県の植樹祭を健康むらでするようにして、自分としては山に対しての町の人の思い、それから木を大切にする気持ち、関わる気持ちをこれから作っていき</p>



	<p>たいと思って、今年度、子どもたちに植樹をさせていこうと思っています。小学校の何年生かが、毎年1本でもどこかのところに木を植えさせたいと思っていて、ある面では荒廃農地のところを、例えば179号線の木地山あたり、その道沿いの遊休農地に木を植えていくこともどうかと、これは個人的な考えなんで、御意見を頂戴したり、職員に意見を聞いていきたいと思いますが、ある面で山というのは産業の面だけではなく、三朝町の場合当然ですけど、景観的要素、観光的要素があると思っています。続いて、観光協会長さん、いかがでしょう。</p>
<p>足立委員</p>	<p>観光協会の会員の中では、私も旅館をやっていますけども、宿泊とお料理を提供するというのは、特にマンパワーが必要になります。それで、募集で最近、2019、18年の中で三朝町にお住いの方で、応募してこられる方があったかなと思うぐらいです、正直。県内からは非常にたくさんの方が就業していただいています。一つは、自前寮はありますし、我々は旅館組合も寮を持っていますし、ツールとして非常に活用しながら、県外の方近くに住んでいただいて、就労をしていただいています。しかし単身者の寮ばかりであるにはあるのですが、単身者が多いというので、結婚したり、就労しても倉吉に出てしまうというのが結構あるんですね。そういうところを利用して、就労してもらい家族で移住してもらえる方は、そんなに多くはない。私が知らないだけでも知りませんが、外に向けては結構発信されるのでしょうか、私どもには、「三朝に住んだら、自然がいいとかは、もちろんいいんですが、こういう良いメリットがあるんですよ。」というアピールができていないと思う。就業を促すときには、給料がこんなにあるんです、寮費はこんなに安くて、こういう所に住むんですとたくさんアピールをするんですね。我々も町とコミュニケーションを取りながら、就業してもらえ、メリットが、三朝町に住んでもらえば、こんながあります。新たに住んでもらうには、金銭的なメリットがないとわざわざ遠くからやって来て住もうとかないです。手取りの収入が、こんなにあるんだ、お給料の額面がこんなにあるんだ、というのは結構頑張ってやるので、いいところなんで住んでくださいというだけでは、日本の労働市場の中では非常に厳しい面があります。例えば、空き屋情報とか・・・倉吉は不動産屋が少ない、住みたくても住めない、そもそも空いているところが分からない。社員は経営者に相談しません、自分たちで探します。もう少しうまくコミュニケーションを取りながら、発信できれば、我々も就業していただく方がたくさんになれば良いと思います。正直、シーズンのたびに宿泊者数が減っていく傾向があるんですね、理由は営業で</p>

	<p>きない。人手が足りなくて。11月、8月とかお客さんたくさんあっても毎日いっぱいだから逆にできない、ちょっと暇なときは適当に休めるからできない。そういうのどうかなと思います、弊社にも、実は4月に入った新入社員の中に広島からくる女の子がいるんですけど、三朝温泉に泊まって良いなと思ったから、是非、都会の生活ではなく、こういうところで暮らしたい。ただ現実があるんで、お給料の面、待遇の面があってくるんですけど、できればそういう所をうまくコミュニケーション取れば良いなと言うのが一つと、子どもの頃に、三朝に住んでいて、三朝町の事業所に就職する人って多かったと思うんですけど、子どもの数が少ないのもそうなんですけど、こういう魅力があるんだと子どもたちに発信できれば、さらにここに住んでもらえるのではないかと私は思います。</p>
<p>松浦町長</p>	<p>沖田さんでしょうか。</p>
<p>沖田代理</p>	<p>私、ここに住み始めて5年くらいなんで、まだまだ地域に関して頓珍漢なんで、勝手なことを言うかもしれませんが、この仕事をして、印象に残っているのは、温泉の地区とそれ以外の地区の「三朝町・観光の町」と言いながら、町民と意識の乖離が激しいなと思うところがあって、観光の町として進めていくことの難しさを感じているのと、何回か耳にするんですけど、こういう時代になって旅館もしんどくなって、「こういう状況になってから何とかしてくれ」と言ってくるけど、良い時はどうだったんだ、勝手なことばかり言って」というけど、言葉はちがうけど、何度か聞いたことがあって。確かに、良い時はだれでもそういう面があって、だけれども町の全体としては、観光、農業、森林もそうですけど、そこが落ちると全体が落ちてくるということが、頭でわかっても、なかなか理解できていないという人が多いんじゃないかなと大きな印象です。こういう会議に参加させていただいて、これから、そういう意識がなくなるかと言えばそうではないんですけど、これから三朝町が生きていくためには、何をしなければいけないかという事を、町民一人一人が意識できるところを、強調していかなければならないかなと思います。行政だけでなく、我々であったりという所の発信もすごく大事になってくるのではないかなと思います。それと、具体的ところで言いますと、やっぱり私旅館やっているので、温泉街、こないだも、長門湯本に視察に行ってきたんですけど、今川辺の大きな開発をやって、そこの真似をしてくれと言うわけではないですが、やはり温泉街と川の活かし方、なぜかと言うと泊まりに来た、三朝温泉に入りに来てくれた人を、いかに温泉街、まちを歩かせるかというところ</p>

	<p>を、これから3年なのか、5年なのかかわからないですけど、しっかりと考えて、温泉街の雰囲気であったり店舗であったり、川辺の再整備、特に夜で言うと明かりの使い方というところを、これば別に町にしてくれと言うわけではなくて、我々民間も一緒に考えていかないといけないのかなとは思っています。あと、足立さんも言われましたが、流入人口のことで言いますと、鳥取市でも住みやすい田舎1位とかよく取り上げられていますけど、それが良いかどうかの評価は別としまして、周りの自治体、湯梨浜でもそうかもしれません、そうやって取りあげられているところが多い中で、申し訳ないですが、三朝町の印象ってないんですね。取り上げられたから良いという事ではなくて、その発信も大事ですし、実際に何をやっているのか、という所もあまり見えてこないの、そのあたりのターゲット、どこにターゲットを絞って、それは年代層でもそうですし、子育て世代もそうです、どこの地域を特に狙うのかというところも含めて、もうちょっと戦略的にやっていったほうがいいんじゃないかなと思っています。やはり、子育て世代が入ってこない、単発的なものになってしまって、なかなか結果も出てこない、素材も色んな部分で素晴らしいところも思いますし、やっていることも実際は、他に負けないことをやってくれると思うんですけども、そのあたりを重点的に取り組んで、一緒に取り組んでいけたらいいのかなと思います。</p>
<p>松浦町長</p>	<p>仕事の関係でずっと来ていますので、商工会の松原さんいかがでしょう。</p>
<p>松原委員</p>	<p>商工会で言いますと、現在会員が175ですか。数年前から事業を廃止される方が多くなってきています。そうした中、これから人口減少、少子高齢化、働き手不足という事で今まで以上に事業を廃止される。商工会といえば、ほとんど小規模な事業者、中小の事業者であって、こうした現在商売をされている方々でも将来後継ぎがないとか、これからそういったことが大きな問題になってくると思います。商工会の方でも、後継ぎ、補てんの支援、これから増やしていかないといけないと思っています。先ほど、沖田さんも言われましたが、温泉街の多くのお客さんが来ていただいて、先ほどおっしゃった温泉街、商店街をもう少し魅力のあるものにしていかなければならないと思いますし、もう一つは、空き店舗、空き屋が商店街に多いんですけど、現在も商工会でも先日調査しまして、空き店舗、空き屋の元主さんで、売って頂けるかどうかとところまで、今調べています。数日中には資料ができると思います。一番心配なのは、これから会員数がどんどん減っていくという事態</p>

	をどうにかしないといけないということです。以上です。
松浦町長	このような話もできましたので、職業安定所の福田所長さんいかがでしょうか？
福田委員	今、旅館組合さんとか商工会さんとか話を聞かせてもらいまして、人手不足とかいうようなところも出てきましたけれども、今日ちょうど昼のニュースで、労働市場の発表があったわけですが、県下全体で労働市場の指標としまして、有効求人倍率という指標があるわけですが、12月末で県下全体で1.67、中部地域では2.26という事で、この数字だけでもこの中部地域は、かなり人手不足が深刻化しているという状況であります。その中で、特に観光業、旅館業さんですかね、宿泊業においては、私どもハローワークの中で年間通して募集していただく割合で宿泊業が1割くらい、あと福祉系介護が3割くらい、特に三朝町さんの介護関係、福祉関係の施設が多く有りまして、2つの業種合わせて4割くらい占めていまして、この中でも、さらにこの2つの業種の有効求人倍率は高い状況であり、さらに人材不足が深刻化している現状であります。私でもでは、できるだけ人手不足が深刻な分野の方にご案内できたらと、いろんな取組みをしているところですが、なかなか現状では追い付いていない状況であります。それと合わせて、地元の若い方々の、県外への流出という側面もありまして、ハローワーク、労働局、県一体となって、例えば、高校生の近外流出食い止めると言いますか、地元就職への促進という意味で色々な取組みを行っているわけですが、やはり中部地域は、他の東部、西部地域に比べましても流出する生徒さんの割合が非常に高いというような現状で、地元企業の魅力であるとか少しPRが不足しているのかなと、学校さんとの連携しながら、いろんな取組み、地元企業さんのPR、三朝町さんであればさきほどにもあります就労環境のPR、生徒さんに向けて発信しているところではありますが、現実問題として解決できていないところがございます。
松浦町長	ありがとうございます。切り口を変えて、人を育てるという事から、大坂会長さんいかがでしょう。
大坂委員	地域を預かる立場として、先ほど青木地域振興監がおっしゃったように、村としてなかなか成り立っていない、そういう村が増えてきました。地域協議会で区長会がありまして、その区長さんに声をかけましても、区長さんがお見えにならない。なかば諦めていらっしゃるのか、というような状況があります。今度、お伺いしてお話を聞こうかなと思っています。非常に高齢者が多くなって、恐らく高齢化率40何パーセン

	<p>トになっていると思います。一人でお住まいのかた、高齢者夫婦でお住まいの方が増えていて、あと数年後には空き家になってしまう可能性が非常に大です。施設に入っている方もありますし、生活されている方でも、生活の足であるとか、あるいは精神的なケアが非常に大変になってまいります。その中で、若者、子ども達のために、地域で出来ることはなんでしょうかと、今地域で考えています。30代、40代の消防に入る方を集めて、まとめて青年団的なつながりをつくりたい。世代間の交流という形で、子どもから大人まで楽しめるイベントをどんどんやって行って、親睦を深め、お互いが笑顔になる。そのような取組みができたらなと思っています。三朝小学校では、良いことに地域を知ろうという取組みをなさろうとしています。各地域にそれぞれ良いところがあるので、自分で見て、聞いて、体験しようとする取組みを進められています。地域協議会としても協力したいと思っています。やがては子どもたちが大きくなり、地域から出ても、また地域に帰ってくる、少しでも地域に帰ってくる可能性を高める、教育では大事なことはないかなと思っています。私は三朝が大好きであります、家は片柴であります、夏は水浴びをして、河原風呂に入って、また水浴びをした。三朝には、情緒がありました。お白いの香りがしていました。置き屋さんの太鼓の音がしていました。何か知らない、情緒がありました。今私たちが、その情緒というものを忘れているところではないかと思っています。ありきたりの情報はいらないので、血の通った情報が欲しいなと思います。その情報を出すのが大事と思っています。温泉街を活性化し、温泉街以外の人のそこに行って、駄菓子を買いたい、くじをしたい、家族でお茶を飲んだり、そういったところがあっても良いなと思います。思いはたくさんありますので、また書かせてもらいますが、できることから、みんなが協力してやることだと思っています。以上です。</p>
西田委員	<p>大坂先生のお話を受けてお話しすると、小学校が統合しまして、それぞれ3つの学校が一つに集まったときに、それぞれ地域の宝、良い所を地域の人に教えてもらおうということで、PTAの親子会で、6つの地域にお願いして、6学年ありますので、そうすれば一回りというような、小学校の動きだったと思います。中学校の方は中学校のほうで、修学旅行で企業訪問をしています。色々な会社で、三朝の紹介ビデオを自分たちで制作して会社訪問時にプレゼンをしています。私の町はこんな町です、こんなところから来ましたと、町を紹介しています。SDGsの関係でも、子どもたちの作った映像が、新居浜のコンテストで特賞とか入賞とか、最近では作成した缶バッジが県で4つ賞を取っています。子</p>

	<p>ども達の教育の中では、パソコンを使ってインターネットで発信していくことは、十分に先進的にやってもらっていると思っています。今度、計画の方に移りますが、目標を達成することが目的になってしまっていて、目標を達成する裏にどんなイメージが、どんな社会が達成されるのか、目標の数値が何パーセント達成することに終始してしまうのではなく、ここまで達成したからもういいやではなく、関係性に変化がでるような目標数値設定されるべきかなと思います。</p> <p>もうひとつは、子どもたちが関係性を持って、高校に行き、高校からは教育委員会の手を離れるんですけども、高校を中退するところのケアをしようとするのが、県下の流れになっていて、市町村教育委員会がそこ子たちをケアしようという動きがあります、さらには、大学生になってからのつながりをどう持っていくかという事もあります。世界に飛び出してくれる子どもたちが多くなることも三朝にとっては良いことで、外から応援してもらうことも良いことだと思っています。足立さんや沖田さんが言われましたが、この三朝でどのような生活ができるのかというイメージを作ってあげることが、子どもたちにとって大人からのメッセージになるんじゃないかなと思っています。そのあたりがイメージできないのは、子どもたちが東京の良いイメージだけをとって、そこに行くんですけど、マイナスのイメージもあるんですけど、その辺を大人たちが子どもたちに見せてやれば、学校だけではしんどいところもありますので、家庭、地域で見せてやるのが重要なかなと思います。</p>
松浦町長	<p>ありがとうございました。外部からの目線という事で、長江さんいかがでしょうか？</p>
長江委員	<p>この会に臨ませてもらうために、少し早く三朝に入らせてもらって見たんですが、やはり1番のコンテンツというと温泉なんだろうなと感じました。地域を活性化させていくためには、一定程度の人口は必要なんだろうなと思いますし、まあ、人口としてだけではなく賑わいも。その賑わいを作ろうと思うと、人が外に出て活動しているところが何となく重要なこととわかるんですね。青木振興監もおっしゃってましたが、出生率を上げていくのも限界があると思いますし、やはりそこを補っていく要素のステップとして、今回の2期の計画中での関係人口とかは重要で、この関係人口を増やしていく手腕は各行政で変わっていくと思うんですけど、三朝町で言うと、温泉を核とした観光という所が、関係人口へのツールと考えています。観光というところも重要なんですけども、観光から少し離れてというところも考えられるのかな</p>

	<p>というところで、書き物にも書いてありましたが、現代湯治だとか健康につながるキーワードに温泉、三朝温泉を考えまして。そこを発展的に捉えまして、最近ワーケーションとう考え方がありまして、他の自治体も取組まれています、長期滞在をしていただいて、仕事場を、都心の企業とタイアップして、ワーケーションスペースを作って、都会で仕事をするだけではなく、通信環境を整えたいがい多少離れていても仕事はできますので、そういう技術を使って、都会の喧騒から離れて、アイデア商品の発想とか、落ち着いた場所で仕事することで、新たな発想が生まれますし、さらに温泉につかって健康になり、リフレッシュして、田舎都会に関わらず日本は人手不足なんですけれども、都会の企業とそういった、福利厚生ではないですけれども、そういう働き方も競争力につながってくると思います。そのような企業とタイアップして、温泉の別の活用の仕方の関係人口を増やしていく。先ほど足立会長も言われましたが、三朝温泉に来て三朝が気に入って、三朝町に越してくる。体験してもらって、町の雰囲気を知って、好きになってしまう。ファンを増やすだけでなく関係人口を増やすことにつながるでしょうし、その関係人口の中から、移住したいという人が増える。その移住したいという人たちのために、最低限の生活環境というか、教育面子育ての面、高齢者の見守りの話ですとか、そのようなインフラを用意することで関係人口から、少しでも定住を増やしていく、そういう営みを2段階でおこなっていくことが、町の活性化につながると思っています。そのための、大きい魅力は三朝にあると思っていますので、先ほどのワーケーションの話も一例でしかないと思いますが、そういったものをキーワードとして関係人口を増やしていくための、こんな使い方もあるんだなという事を示す計画でも良いのかなと思っています。</p>
松浦町長	<p>ありがとうございました。竹本支店長さんいかがでしょうか？</p>
竹本委員	<p>私は鳥取市の出身でして、こちらに単身赴任しております。銀行に入りまして26年くらい、米子、鳥取、津山と色々移動したんですけど、25年たって初めて中部になりまして、いろんな意味で、色々わかる世代になってから来させてもらって非常に良かったと思うんですが、実は倉吉と三朝温泉と一緒に考えていまして秘境の中の三朝温泉、素晴らしい温泉があると思っていたんですが、倉吉と三朝の近さに驚きまして、私は三朝はとんでもなく奥だろうと思っていたんですが、実際に車で動いてみて15分という事で、この環境に、温泉中心としたぜんぜん違うロケーションにある三朝町、こんなに近くにあるんだなと知り</p>

	<p>ました。一番考えたのは、倉吉で働く人、生活圏として十分考えられる距離ではないかなと非常に思いました。人口減少はどこでも、どの町でも真っ先に考えられる、若者世代が一番選びやすいのは、住みやすい町、一番上位に来るのは子育てに関して優しい町だとか、教育であるとか、保育であるとか非常にうたわれています。生活圏であるということターゲットに絞れば、十分に三朝町と言うのは魅力のある町だと思っているので、若者世代が住んで、例えば環境に良いだとか、子育てしながらも倉吉であるとか湯梨浜まで仕事で行けるのは十分考えられる。そういったところをPRできれば、若者層が増えてくるのではと思っています。実際、倉吉で新築されるにも土地が無い状態で、今どんどん湯梨浜の方に若世代が家を建てています。あそこも、生活圏として倉吉に近いのであれば、三朝も十分にそういった魅力のある場所でもありますし、そういう、ある程度造成ができていたとか、そういう所が売り出せば、うけていけるとと思っています。空き店舗、空き屋というのが出てきているというのは、難しいとは思いますがリノベーションして、例えばチャレンジショップとして利用してもらって、若い方に利用してもらおうとか、我々も起業支援として打ち出して行って、そういったご支援、例えば計画の策定であるとか、我々もお手伝いしてまして、若い世代の女性の企業が増えています。温泉街と絡めて民家を改修したカフェ、空き店舗を活用したカフェであるとか、もし、そういった方があれば、全面的にご支援したいと思っています。なかなか難しいとは思いますが、そういった切り口で進めていくというのも一案ではないかなと思っています。</p>
松浦町長	<p>ありがとうございます。太田支店長さんはいかがでしょう。</p>
太田委員	<p>人口減少というのは全国的なものとなっていて、そのなかで動いておられるんですが、どの世代を流入させていかないかとするときに、失礼な言葉かもしれませんが、リタイヤした世代が流入されても、将来的な町が目指す改革には向かわないと考えます。温泉による治癒となりますと、目線は比較的年齢が上になりがちかなと考えるんですけど、一番大切な世代というのは労働をまさにしておられる、これから子育てされる、子育てしておられる世代が入ってこられるのがよいが、その解決策が非常に難しいと。これは全国的なことですが、幸い中部においても、ほかにはなく、温泉という大きな資源があるのは事実です。他の町には、無い大きな資源です。この温泉を若年層に何か利用できる取り組みを一つ大きな柱としたいと考えられないかと。ただ健康になるよ、だけではなくてターゲットを明確にして、動いていくのも大切なんでは</p>



	<p>と私は思っています。そうは言いますが、食い止めるというのは、良い意見は出てくるんですけど、果たしてそうできるかという非常に難しいと思います。行政批判をするわけではないですが、現実を見て、色々と議論を交わした方が、なかなか表面的には、田舎の良い部分はたくさん言えますが、今の若世代はそこだけを推してほんとで定住に結び付くのかな、これだけ時代も変わって来て、便利さを求める時代の中で、やはりそのあたりをもっともっと引き込んでいかないとなかなか問題は解決しないのかなと思います。信用金庫としてもアナログとして生きていかなければなりません、アナログと便利さの中でタッグを組んでやっていけたらなと思います。</p>
松浦町長	<p>ありがとうございます。日本海新聞の前田さんいかがでしょう。</p>
前田委員	<p>今日は議論の第1回目ですので、一般論に抑えさせていただきますけども、ご覧のとおり少子高齢化というのは全国の自治体で共通した課題であります。課題解決に向けた、各自治体は総合戦略を進めるという事ですけども、どこでも実情に即したもので立案していく中で、恐れるのは絵にかいた餅、全国共通な金太郎あめのものになるじゃないかなと危惧しています。行政主導での、住民一人一人が誇りを持てる、シビックプライドという情勢が必要かなとなります。そうすれば、おのずと住民自ら町を好きになって、いま SNS の時代ですから、全世界に発信できると思います。それが、結果的に町を PR してくれる、シティープロモーションになるじゃないかなと感じています。一方で、人口減対策の計画を作る中で、乱暴な言い方になりますが、青木地域振興監のいわれました、人口減少に対応できるまちづくりと、やはり人数の問題ではなくて、一人一人の住民の方々がこの町に住んでいて、価値を求めるといふか、豊かさを実現できる方向に向かえば、おのずと SNS 等により町の魅力を知って、それが地区外からの流入につながって、人が人を呼ぶ流れができるんじゃないかなと思います。人口減少に適応できるまちづくりの中で、上手にコンパクトシティーと言うか、上手に縮んでいくまちづくりの視点もこれからは必要かなと思いますので、是非ともこの総合戦略の中に道筋をつけていただければと思います。以上です。</p>
松浦町長	<p>ありがとうございます。来られたばかりですが、山名さんいかがでしょうか？</p>
山名委員	<p>ケーブルテレビの立場から考えますと、ケーブルテレビの仕事は、一つは番組、もう一つが情報インフラということで二通りあるんですけども、番組を作っていく中で三朝町さんだけに限ったことじゃないんで</p>

	<p>すけども、いわゆる三朝町の魅力をどのようにPRしていくかという話の中で、もちろん三朝町にお住いの方は一番良く分かっていらっしゃるんですけども、自分の住まわれているところの良さは分かっておられると思うんですけども、去年うちのケーブルが若桜町に京都からIターンで来られたお味噌屋さんを取材させていただいた番組を作ったんですが、なんで来られた？どこに魅力を感じられた？ということインタビューしたんですね。味噌を作るから水がいいとか、そういう強さもあるんですけど、近所の農家さんが優しくしてくれたとか、そういうような、地元いたら当たり前であるところを気に入って、Iターンをしてこられたということで、そういう面があるんだなと感じました、私は、鳥取市に住んでいるんですけども、鳥取市に「あんべ」という親ガニを出される店があるんですけども、あそこの大将って鳥取の人では無いんですよ。東京の人で、鳥取に来られた際に親ガニを食べられて、なんておいしい食べ物なんだと思って、なんでこれを鳥取の人は、上手く活用しないんだということで、あの親ガニを作られたらいいです。私たちは、あるのが当たり前で、アピールと言うか、出したら喜ばれるところを分かってなかったんだなと感じました、中にいる人達で、外に向けてのPRと言うのも考える必要があるのも大事なことなんですけども、例えばIターンされてきた人に、どこが良かっただろうかという話を聞いて、それを外に対して上手くPRすることが有効なんじゃないかなと思います。情報インフラの方も温泉街であったり三徳山だとか良い観光資源があるので、そういったところも情報インフラをうまく使って、観光の案内を、多言語とか、例えばガイドさんがついてなくてもスマホで色々と観光情報がどっかに向けたら見えるとか、というようなことで外から来られる方でも、どんどん喜んでもらってもう一回来ようかなというところで関係人口を増やしていくような取り組みがこれから必要になってくるかなと感じます。</p>
松浦町長	<p>ありがとうございました。いい機会ですので、上野さんお願いします。</p>
上野オブザーバー	<p>私は、中部総合の方で観光商工を担当してまして、今皆さんのお話を聞いてまして人手不足の話ですとか産業関係のお話がありました。人手不足という事で、観光業とか宿泊業の人手不足が非常に以前から伺ってまして、大変な状況なんですけども、色々な事情がありますが、県外から就職されてこられる方がおられるというのはほかの地域にはないことですね。やはりその辺の魅力は、ポテンシャルとしてあると思うんです。県内の各温泉を見ましても、三朝温泉のように情緒ある温泉地は無いんですよ。県内でも非常に高い、観光地だと思います。実際に皆</p>

	<p>生温泉に迫るような人数でして、中部全体では県内の4割の宿泊を誇っている地域でありますので、そういう所をいかに活かしていくかということで、働きプラス魅力、働きに魅力のある職に、そういう観光があるような、よくある働き方改革なんかに取り組んでいただくこともあるのかなと、そういったところをしていくと。若い方が入ってきていただくためには、同じように働く場所の提供が必要になって来るんですけど、三朝町さんには非常に良い企業があるんですよ。自動車関連の企業であったり、高い技術を持った企業さんだったりあります。そういうところで大きくしていこうという気力があるあたりする企業さんがあったりしますので、そういうところを県と一緒に支援して応援していただき場所を提供する。先ほどもありましたが、三朝は倉吉に近いという利点があります。それを活かして、中部全体で全域での働く場所と労働力を確保していくことも考えていくことが必要になってくる気がしました。もう一つ、外から優秀な人に入ってきてもらいたいというのがあると思います。中部にインキュベーションの施設と言うのが全くないですよ。東部や西部にはあるんですけど、そういうのがありますと県外から新しい、特に情報系の企業とかが入ってくる可能性があると思います。例えば小学校が、今利活用を考えておられますが、東部の方でそういうのもやっているところもございしますが、例えばそういうことを検討してみられるのも面白いんじゃないかなと思います。中部は魅力のある所でございますので、可能性はあると思います。いろんなことに取り組んで行く必要があると思います。中部総合としましても、来年度は今よりも濃く三朝町さんとタッグを組ませていただくことになると思いますので、皆さん、御協力をいただきたいと思います。</p>
松浦町長	<p>ありがとうございました。色々な意見を出していただきました、これから意見を踏まえて、戦略を立てていくことになると思っておりますが、行政サイドはこれに限らず、いろんな計画書がございます。今回の総合戦略は、はじめにも申しましたとおり、11次の総合計画のアクションプランだと思っておりますし、私たちにはいろんな計画書があります。作らなければならないから作っているのが多いんですけど、三朝町の一番悪いのは、計画書を作るのは上手な面があったり、繕いは上手だと思っておりますが、そこからの動きを作るというのが、うちの町の欠点でございますので、これは戦略でございますので、全てができるというわけではありませんけど、動きを作っていきたい、そういう戦略にしていきたいと思っておりますし、動くにはみなさんと共に動いていきたいというスタ</p>

	<p>ンスで向かってみたいと思いますので、こらからの会議についてもよろしくをお願いします。</p>
青木地域振興監	<p>ありがとうございました。</p> <p>みなさんの意見をいただきまして、方向性であるとか、ものによっては階段であるとか、そういったものを計画の中で練っていくということにさせていただきます。時期開催日につきましては、年度末の忙しい時期になりますが、改めて事務局から日程調整させていただきたいと思えます。お手元に、1枚もので意見を書いていただくものを用意しています。思われたことを書いて返していただきたく思えますのでよろしくをお願いします。場合によっては、こちらからご意見をお聞かせくださいという事で、お邪魔することあると思えますのでよろしくをお願いします。</p>